

第三號

極秘

軍審發第四三號

陸軍軍需審議會ニ於テ審議ノ件覆申

昭和十五年十一月十八日

陸軍軍需審議會會長

阿南 惟

陸軍大臣 東條 英機 殿

左記ノ件別紙ノ如ク一部ノ希望條件ヲ附シ審議決定セシニ付覆申ス

左記

一〇〇式司令部偵察機假制式制定ノ件

陸軍省  
航空部  
5.1  
受  
15.11.20  
12  
軍審

陸軍軍需審議會會長之印

15.11.20  
第三號

0433

判		決		委員		氏名	
異	存	ナ	シ	陸軍航空總監部第二課長	古	屋	健三
異	存	ナ	シ	同 第三課長	野	口	進
異	存	ナ	シ	陸軍航空本部第一課長	原	田	貞憲
異	存	ナ	シ	同 第三課長	中	山	寧人
異	存	ナ	シ	同 第七課長	淺	野	剛
異	存	ナ	シ	同 第八課長	谷	口	初藏
異	存	ナ	シ	陸軍航空技術研究所長	安	田	武雄
異	存	ナ	シ	陸軍飛行實驗率	阪	口	芳太郎

一〇〇式司令部偵察機假制式制定二件

異 存 ナ シ	異 存 ナ シ	意 見 ナ シ	意 見 ナ シ	異 存 ナ シ <small>但シハ。パーロックハ取扱及補給要領ヲ煩雜ナラシメサル方法ヲ以テ至急解決スルヲ要ス</small>	異 存 ナ シ <small>但假制式制定後ニ於テモ氣塞防止ニ関シ更ニ研究改善セラシ度</small>	意 見 ナ シ	異 存 ナ シ	異 存 ナ シ
同 機 械 課 長	同 銃 砲 課 長	陸 軍 省 戰 備 課 長	教 育 總 監 部 第 一 課 長	參 謀 本 部 第 三 課 長	參 謀 本 部 第 二 課 長	陸 軍 技 術 本 部 總 務 部 長	陸 軍 航 空 工 廠 長	陸 軍 航 空 本 廠 長
田 中 政	伊 藤 鈴 嗣	岡 田 菊 三 郎	後 藤 光 藏	中 山 源 夫	土 居 明 夫	藤 室 良 輔	猿 谷 吉 太 郎	鳥 田 隆 一

極秘

燒用  
沙  
却後

議題第一

一。式司令部偵察機假制式制定ノ件

昭和十五年八月

目次

第一 審査の目的

第二 判法

第三 審査一般の成績

第四 審査經過の概要

別紙第一 司令部偵察機構造の概要並諸元及飛行性能

別紙第二 陸軍航空本部航空兵器研究方針抜萃

寫真 二葉

式司令部偵察機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

陸軍航空本部航空兵器研究方針ニ基キ三菱重工業株式会社ニ  
試作セシメタルギ四十六ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定ス  
ルニ在リ

第二 判決

本機ハ昭和十三年七月一日改訂陸軍航空本部航空兵器研究方  
針ニ基キタル司令部偵察機トシテ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般ノ成績

- 一 本機ノ構造 諸元及飛行性能ハ別紙ノ如シ
- 二 行動半徑

行動半徑ハ要求條件ヲ充足シ一〇〇〇軒ニシテ行動ハ爲約  
一時間ノ餘裕ヲ有ス

三操縱性能

安定良好且操縱一般ニ容易ニシテ操縱性能良好ナリ

四偵察性能

偵察性能ハ概テ良好ナリ

五自衛性能

自衛性能ハ概テ適良ナリ

六構造強度

陸軍飛行機構造規程及同改正案ニ基キ製作セラレ構造適

當ニシテ強度充分ナリ

七耐久性及取扱

耐久性ヲ有シ取扱容易ナリ

八本邦軌道ニ依ル鐵道輸送可能ナリ

第四 審査経過 概要

昭和十二年十二月二十七日三菱重工業株式会社に試作ヲ命ジ  
 昭和十四年八月第一号機、完成ヲ見タルモノナリ。爾後第一  
 号機ヲ以テ各務原ニ於テ試験飛行ヲ行ヒ若干ノ改修ヲ実施シ  
 同年十一月以降立川ニ於テ試作機ニツキ基本審査ヲ實施シ  
 和十五年三月下志津陸軍飛行學校ニ於テ實用試験ヲ終アレタ  
 リ（別冊實用試験成績参照）此、間全飛行時間二一六時間、  
 一枚最大飛行時間八四時間、一九二〇升（立川）大村灣間往  
 復無着陸、長距離飛行三一七回、離着陸（一枚最大一〇七回）  
 昭和十五年一月ヨリ二月ニ至ル滿洲ニ於ケル寒地試験ヲ終テ  
 昭和十五年四月末基本審査ヲ終アシ引續キ同年四月末ヨリ飛  
 行實驗部ニ於テ補足實用試験ヲ開始シ同年八月十日共ノ大部  
 ヲ終了（別冊實用試験報告第一及第二次参照）適當ナル改  
 修ヲ實施セバ司令部偵察機トシテ概不適當ト認ムル判決ヲ得



別紙第一

式司令部偵察機構造ノ概要並諸元及飛行性能

一 構造ノ概要

本機ハ片持式低翼單葉双發動機附複座機ニシテ機体ハアル  
 ミニウム合金ヲ主材トシ翼前端ニ九九式九〇〇馬力發動機  
 (二型)ニ基ヲ裝著シプロペラハ三翼油圧式定回轉プロペラニ  
 シテ脚及尾輪ハ油圧ニ依ル引込式ナリ

本機ノ構造寫真第一及第二ノ如シ

二 本機ノ主要諸元次ノ如シ

全	幅	約一四・七〇〇米
全	長	約一〇・〇〇〇米
全	高	約三・三〇〇米
主翼面積(補助翼共)		約三二・〇〇〇平方米
空	虚重	約三・三八〇(斤)
搭	載重	約一・四四〇(斤)

全備重量 約四八〇斤

三本機ニ装着セル發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシテ其ノ主要諸元次ノ如シ

名	稱	九九式九〇〇馬力(二型)
型	式	複列星型空氣冷式
氣	筒	一四
壓	縮	比
	比	六・五
プロペラ	回轉方向	飛行方向ニ見テ右廻リ
公稱回轉數	(毎分)	二、六〇〇
地上公稱馬力		八〇〇
公稱高度馬力		九〇〇(高度三六〇米ニテ)
上昇最大回轉數	(毎分)	二、六五〇
上昇最大馬力		八五〇
全	長	一、三九二米

四本機ノ飛行性能次ノ如シ  
ノ水平飛行速度

全	一、一八耗
重	五二六耗(乾燥状態)

高	度(米)	最大水平速度(時)
一	〇〇〇	四六五
二	〇〇〇	四八九
三	〇〇〇	五一三
四	〇〇〇	五三七
四	一〇〇(興圧高度)	五四〇
五	〇〇〇	五三四
六	〇〇〇	五二七
七	〇〇〇	五一八

之 上昇時間

高	度(米)	上昇時間(分-秒)
一〇〇〇〇		一、三九
二〇〇〇〇		三、一三
三〇〇〇〇		四、四五
四〇〇〇〇		六、一三
五〇〇〇〇		七、四五
六〇〇〇〇		九、三九
七〇〇〇〇		一一、五九
八〇〇〇〇		一五、〇一

一〇〇〇〇〇	四三七
九〇〇〇〇	四八一・五
八〇〇〇〇	五〇五・五

3. 上昇限度

九〇〇〇	一九二〇
一〇〇〇〇	二六二八

理	論
一〇、一〇〇米	一〇、二〇〇米
實	用
一〇、一三〇米	一〇、一三〇米

五. 主要裝備

1. 射撃裝備
2. 無線裝備
3. 方向舵自動操縱機
4. 寫真裝備(特別裝備)

試製單銃身旋回機關銃(二型)一、實包三四發

- 一 式
- 一 式
- 一 式

## 別紙第二

## 陸軍航空本部航空兵器研究方針抜萃

昭和十三年七月一日改訂

項目	要	稿
偵察機	(一) 可偵機 一、主トシテ航空作戦ニ於ケル神速ナル情報ノ蒐集及連絡ニ任ジ隠秘挺進的ニ行動シ得シム 二、特ニ水平速度ヲ何レノ機種ヨリモ優越セシメ大高度ニ於テモ行動シ得ル複座機トス 三、行動半径ハ一〇〇〇米ヲ標準トシ概ネ一時間ノ餘裕ヲ有セシム 四、常用高度ハ四〇〇〇米乃至六〇〇〇米トス 五、主要装備	

偵察機

- 1. 射撃装備 旋回機関銃 一式
- 2. 無線通信装備 一式
- 3. 方向探知機、装備ニ付研究ス
- 4. 特別装備トシテ寫真装備 一式

寫真第一



0447



寫真第二

0448

0449

極秘

用済  
後却

一。式司令部偵察機構造要領

昭和十五年八月  
陸軍航空本部

# 式司令部偵察機構造要領

## 第一用 途

一、本機ハ主トシテ袖遠ナル情報ノ蒐集及連絡ニ用フルモノトス

## 第二 構造機能ノ概要

二、本機ハ片持式低翼單葉複座機ニシテ九九式九〇〇馬力發動機ニ基及「プロペラ」二本ヲ裝ス

三、本機ノ機体ハ胴体、翼組、尾翼、降着装置、操縦装置、其ノ他胴体内外附属諸装置等ヨリ成リ一部ニ鋼及「マグネシウム」合金ヲ用フル外主トシテ「アルミニウム」合金ヲ用ヒ各操縦翼ハ帆布張トス

機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ又必要ニ應ジ偽裝ノ爲塗色スルコトアリ

(四) 胴体ハ「アルミニウム」合金板製ノ框、縦通材及外板ヲ主体ト

スル精圓形張殻式構造ニシテ中央翼ハ胴体ト一体ニ構成セラレ

(1) 胴体前部ハ操縦座席房、中央部ヲ同乗座席房トシ各座席房ノ上部ハ透明板張りトス、頭部ニハ著陸燈ヲ、尾部ニハ引込式尾輪装置ヲ有ス

(2) 操縦座席房ニハ操縦装置、發動機操作装置、始動装置、油圧装置、自動操縦機操作装置及各種計器ヲ、同乗座席房ニハ無線、寫真、射撃諸装置及数箇ノ諸計器ヲ備ヘ、兩座席房ニハ照明、電熱及酸素吸入装置及保安具ヲ有ス

(3) 同乗座席房後上方ニハ機関銃架ヲ備ヘ、回轉風防ヲ有ス

(4) 翼組ハ胴体ト一体ヲ成セル中央翼及外翼ヨリナル

(1) 中央翼ハ前後折及外板ニ依リ胴体ト一体ニ構成セラレ、胴体トノ附根ハ整形セラレアリ

(2) 外翼ハ前後折、補助折、小骨及外板ヨリ成リ、其ノ後縁ニハ補助翼及下ゲ翼ヲ、左右外翼附根附近ニハ發動機ホセ

- る及引込式脚組ヲ装着ス  
 亦せる外方前縁部ニハ左右共第一燃料タンクトシ同前  
 後桁間ニ第二燃料タンク左右各ニ箇ヲ同後桁後方ニ第  
 三燃料タンク左右各ニ箇ヲ装着シ亦せる上面前部ヲ左  
 右共滑油タンクトス發動機架ハ鋼管銲接構造ニシテ發  
 動機亦せる前面ニ四個ノデーパーボルトヲ以テ取付ケラ  
 ル架前面ニハ發動機取付用緩衝ゴム及金具ヲ有ス
- (3) 左外翼ニハ速度計用ピット管ヲ有ス
- (4) 中央翼ト外翼トハ前後桁上下部左右各四本ノデーパー  
 ボルト及後桁後方ノ補助桁ヲ左右各一本ノボルトニ依  
 リ結合セラル
- (5) 補助翼ハ左右外翼後縁部ニ各一箇ヲ有シアルミニウム  
 合金板製桁及小骨ヲ以テ構成シ表面羽布張ナリ前縁  
 ハアルミニウム合金板製ニシテ内部ニ鉛ヲ固着シ質量  
 平衡ヲ形成セシム

(b) 下ゲ翼ハアルミニウム合金板製折小骨及外板ヨリ成リ  
左右外翼後縁下面ニ装着ス

(c) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定  
板及昇降舵、垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル

(d) 水平及垂直安定板ハ片持式ニシテアルミニウム合金板  
製三本ノ折小骨及外板ヨリ成リ水平安定板ハ前後折ヲ  
左右各四箇ノデーパールト、中折ヲ左右各一箇ノボル  
トニ依リ胴体尾部左右ニ結合シ、垂直安定板ハ前後折ヲ  
四箇ノデーパールト、中折ヲ一箇ノボルトニ依リ胴体  
尾部上面ニ結合ス

(e) 昇降舵及方向舵ハ表面羽布張ニシテアルミニウム合金  
製折及小骨ヨリ成ル昇降舵、方向舵共ニ釣合面ヲ有シ内  
部ニ鉛ヲ固着シ質量平衡ヲ形成セシム又各後縁ニハ飛  
行中操作シ得ル平衡板ヲ有ス

(f) 降着装置ハ脚組及尾輪装置ヨリ成リ共ニ油圧ニ依ル完全

引込式ナリ

(1) 脚組ハ單脚式ニシテ緩衝支柱、横支柱、後方支柱及車輪等ヨリ成リ、緩衝支柱ハ空氣及油併用式、車輪ハ七五〇×二六〇高圧車輪(油圧制動)ナリ

(2) 尾輪装置ハ緩衝支柱、支持棍、又金具及尾輪等ヨリ成リ、緩衝支柱ハ空氣及油併用式、車輪ハ二五〇×一〇〇ソリック、ド尾輪ヲ用フ

(中) 操縦装置ハ補助翼、昇降舵、方向舵ノ各操縦装置及下ゲ翼、昇降舵、方向舵、後縁平衡板、操作装置ヨリ成リ、方向舵自動操縦機ヲ有ス

(ハ) 附属諸装置ハ燃料、始動、給油及油圧装置、送油機、関係諸操作装置及プロペラ調速器操作装置等ヨリ成ル

(ロ) 燃料装置ハ燃料タンク、送油装置、諸配管及燃料コック、操作装置等ヨリ成ル、タンクハ胴体内、同乗席前方ニ二箇、左右外翼、ホセ了外方前縁ニ各一箇、前後桁間ニ各二箇、後

析機方ニ各二箇ヲ有シ、ブリキ板又ハ耐蝕アルミニウム板製ナリ。送油ハポンプ式燃料「コック」ハ外翼附根ニ左右各一箇ヲ有シ、索ニ依ル遠隔操作式ナリ。

(2) 給油装置ハ發動機ノ油ポンプ、滑油タンク、滑油冷却器及諸配管ヨリ成リ、滑油タンクハ黄銅板及アルミニウム合金板製ニシテ上面ヲ表面冷却器トナシ、發動機ホセる上面前方ニ露出セシム。滑油冷却器ハ發動機後部下方ニ装着ス。

(3) 始動装置ハ二號慣性始動機及極寒季ニ於ケル特殊燃料注射装置ヨリ成ル。特殊燃料タンクハ胴体頭部内ニ装着ス。

(4) 油圧装置ハ油圧發生装置脚及尾輪上下操作装置、下ヶ翼開閉操作装置及車輪制動装置ヨリ成ル。油圧發生装置ハ發動機直結ノ一号高压油ポンプ及手動油ホシブヨリ成ル。脚、尾輪及下ヶ翼ノ操作ハ操縦席右



側ニ設ケラレタル一箇ノ切換操作弁ニ依リテ行ヒ附隨  
装置トシテ脚安全鉤操作装置ヲ備フ車輪制動装置ハ  
高压油タンクノ蓄積油圧ニ依ルモノニシテ操縱桿頭部  
轉輪ノ槓桿ヲ操作シテ制動ス

(5) 發動機関係諸操作装置ハ氣化器操作装置防塵用氣化器  
空氣吸入口操作装置發動機整流筒後縁開閉操作装置及  
滑油冷却器空氣取入口操作装置等ヨリ成ル

四本概ノ發動機ハ九九式九〇〇馬力發動機十四氣筒複列星型  
空氣冷式ニシテ氣化與圧分配上共火及運轉等ノ諸装置ヲ備ヘ  
尚燃料供給始動發電及吸氣ポンプ装置等ヲ附屬セシメ得ル  
構造ヲ有ス

其ノ主要諸元及性能次ノ如シ

(1) 諸元

氣筒  
衛  
徑

一四〇耗  
一三〇耗

重量

發動機、全径

發動機、全長

プロペラの回転方向(飛行方向に見て)

燃料及同消費率(航空用油ヲ用ヒ)

滑油及同消費率(航空用油ヲ用ヒ)

性能

回転数

地上馬力

高度

高度馬力

離昇

回転数

馬力

約五二六斤

約一、一八米

約一、三九二米

右廻り

公稱回転数及地上公稱馬力に於

テ、 $1000$ 瓦ノ馬力時ヲ標準トス

公稱回転数及地上公稱馬力に

於テ、 $500$ 瓦ノ馬力時ヲ標準トス

二六〇〇回/分

約八〇〇馬力

約三、六〇〇米

約九〇〇馬力

二六五〇/分

八五〇馬力

五、プロペラ、三翼油圧式定回転プロペラナリ  
六、装 備

(イ) 射撃装置

試製単銃身旋回機関銃(二型)一銃(實包三〇四發共)ヲ裝備ス

(ロ) 無線装置

無線装置一組ヲ裝備ス

(ハ) 計測器装置

速度計二箇、高度計二箇、昇降計一箇、旋回指示器一箇、  
人工水準器一箇、羅針盤二箇、飛行時計三箇、吸入圧力  
計二箇、遠方回転計一組、燃料油圧計(双針型)一箇、油量  
計一組、滑油温度計二箇、滑油々圧計(双針型)一箇、氣筒  
温度計一箇、排氣温度計一箇ヲ装着ス

(ニ) 電気装置

機上發電機二組、同蓄電池一組並照明用諸燈器及電熱装  
置ヲ装着ス

(各種附屬品)

落下傘二箇、信號拳銃一挺(彈藥一〇發共)、酸素吸入器二組

附屬器具一組、通話器一組ヲ装着ス

(ハ) 以上ノ地特別裝備トシテ寫真装置一組ヲ裝備ス

七、其ノ地必要ナル事項

(イ) 本機ハ本邦軌道ニ依ル輸送可能ナリ

(ロ) 本機ノ機体構成ノ各部結合ハ鉸又ハボルト止ナルヲ以テ

部分的交換及修理等容易ナリ

### 第三 主要諸元

全幅 約一四・七〇〇米

全長 約一三・〇〇〇米

全高 約三・三〇〇米

主翼面積(補助翼共) 約三二平方米

空虚重量 約三三・八〇〇kg

全備重量(燃料満載)  
搭載量(燃料満載)

約四八二〇斤  
約一四四〇斤

燃料(満載)

約一四九〇斤  
約一〇八〇斤

滑油

約一〇〇〇斤  
約九〇〇斤

乗員

二名  
約一四〇斤

裝備品

火器(單銃身旋回機関銃)

一組

無線装置

一式

寫真装置

一式

各種附屬品

一式

主要性能

計約一三〇斤

上昇限度

理論

一一二〇〇米

實用

一〇八三〇米

上昇時間

五

水平飛行速度

四〇〇〇米迄

八〇〇〇米迄

六分一三秒

五分一三秒

高度一〇〇〇米ニ於テ

四六五粒/時

三〇〇〇米ニ於テ

五一三粒/時

四一〇〇米ニ於テ

五四〇粒/時

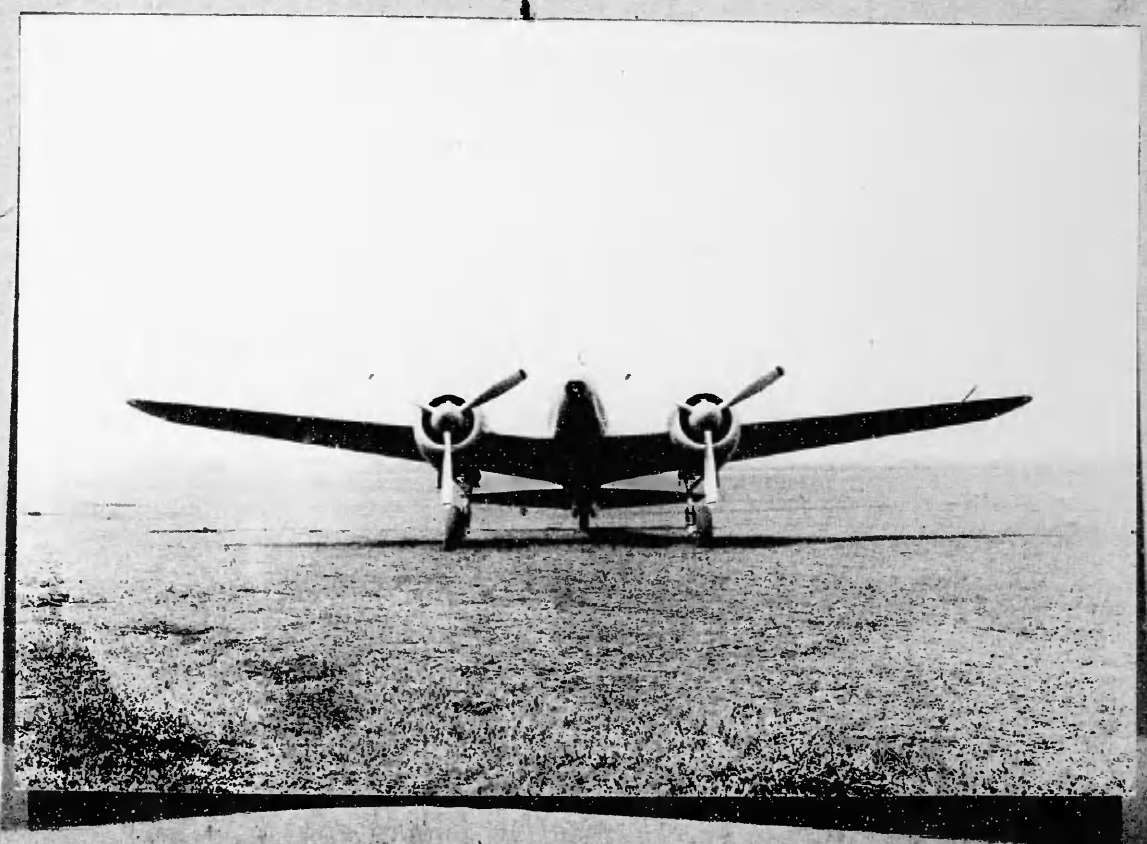
六〇〇〇米ニ於テ

五二七粒/時

八〇〇〇米ニ於テ

五〇五粒/時

寫真第一



0462

寫眞第二

0463